

元二の安西に使するを送る

王

維

(渭城の朝雨)

渭城の朝雨 輕塵を 泥す

君勧む 更に 尽く 一杯の酒を

(無からん 無からん 故人 無からん)

客舎 青青柳色 新

西の 陽関を 出ずれば 故人 無からん

西の 陽関を 出ずれば 故人 無からん

【作者】王維（七〇一？〜七六二？年）盛唐の政治家・詩人・山西省太原（さんせいしやうたいげん）の人。二十二歳で進士に及第し、地方役人から順調

に出世して中央役人となる。安祿山の乱で心ならずも反皇帝側に立つたため、乱平定の後、捕らえられるが、弟の奔走や詩才の巧みさが認められ、下級ながら役職にありつけた。その後再び出世し、尚書右丞（しようしやうじやう）内閣官房室官（ないかくくわんぼうしつ官）まで上り詰めた。晩年はこれまでの役人生活に疑問を抱き、長安の南の川（もうせん）に別荘を構え隠棲し、詩・書・画・音楽に専念する生活を送った。仏教を信じた生きざまにより、後世の人から「詩仏」と称えられた。

【語釈】*元 一：王維の友人で元という姓の人。二：一族のうちで上から二番目の男子であることを表す。 *安 西：今の新疆ウイグル自治区クチ

ヤ県 唐時代にはそこに都護府（とこふ）軍隊を用いて辺地を警備監督する役所（を置き西域の守護に当たらせた。

*渭 城：長安の西北で渭水の北側にある町 当時西方に旅立つ人をこまで見送る習慣があった。 *柳 色：柳の枝の色 別れの際には柳の枝

を輪にして持たせる習慣がありその柳を想定している。 *陽 関：中国と西域を区切る関所 砂漠地帯にあり玉門関と並んで有名

*故 人：中国では親しい友人

【通釈】渭城の朝の雨は軽い土ほこりをしっとり濡らし、旅館の前の柳は雨に洗われて青々として、ひときわ鮮やかである。君はこれから遠く安西に使うために旅立つのであるがさあ、もう一杯飲みほしたまえ。西の方（かた）陽関を出てしまつたら、もう君に酒を勧めてくれる友人もいないであろうから。

【解説】中国では別れに際して、柳の枝を手折ってはなむけにする習わしが古くから有ります。柳（りゆう）↓ 留（りゆう）の音通によって、引き留めるの意を表します。また、枝を環にするところから、環（かん）↓ 環（かん）の音通によって、早くお帰りの意を表しています。